小豆島

しょうどしま



オリーブ、醤油、「二十四の瞳」…、瀬戸内海で2番目に大きい島。

オリーブ栽培発祥の地で、壺井栄の小説『二十四の瞳』の舞台としても知られる小豆島は、一年を通じて多くの人が訪れる観光の島。醤油やそうめんなどの産地としても有名。オリーブ畑や棚田など美しい自然の風景が待っています。

Information 小豆島町

【基本情報】
▶面積／95.59㎢（令和2年10月1日現在）
▶本土からの距離／高松港から22km
▶人口／13,870人（令和2年国勢調査）
▶主な産業／そうめん、オリーブ製品、醤油、佃煮

【島内の移動】
路線バス、レンタカー、レンタサイクル
（詳細はP06の「島内交通」をご確認ください。）

【問い合わせ先】
小豆島町 企画財政課 ☎0879-82-7000

Information 土庄町

【基本情報】
▶面積／58.02㎢（令和2年10月1日現在）
▶本土からの距離／高松港から22km
▶人口／12,864人（令和2年10月1日現在）
▶主な産業／そうめん、ごま油、オリーブ製品、醤油、佃煮、小豆島オリーブ牛

【島内の移動】
路線バス、レンタカー、レンタサイクル
（詳細はP06の「島内交通」をご確認ください。）

【問い合わせ先】
土庄町 企画財政課 ☎0879-62-7014





迷路のまち
（日本遺産構成文化財）

昭和レトロな看板や店舗が残る土庄本町。海賊や敵の侵入を防ぐため、あえて路地を不規則につくったといわれている町の中は、まるで迷路のよう。土庄港から徒歩約15分。



エンジェルロード

1日2回。引き潮のときだけ、大小の島を繋ぐように、海の中からあらわれる砂の道。大切な人と手を繋いで歩くと幸せになれるといわれている。



農村歌舞伎
（日本遺産構成文化財）

江戸時代から続く、島の伝統芸能。中山と肥土山の2つの農村歌舞伎が残っている。肥土山は毎年5月3日、中山は10月上旬に上演される。歌舞伎と歌舞伎舞台はともに国重要民俗文化財。



寒霞渓（日本遺産構成文化財）

日本三大渓谷美に数えられる名勝地。ロープウェイから見える渓谷美と瀬戸内海。秋の紅葉、春の山桜、初夏の新緑など、四季それぞれの絶景が楽しめる。

大部港【休止中】

日生港（岡山）と小豆島を結ぶフェリーの発着港。

土庄港

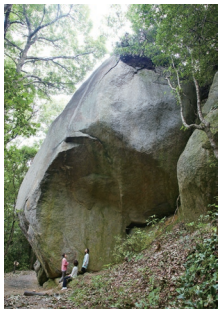
本州からの船と四国からの船が行き交う小豆島のメインターミナル。迷路のまちやエンジェルロードはここから。

福田港

姫路港（兵庫）からのフェリーの発着地。映画「八日目の蝉」のラストシーンでもおなじみ。

天狗岩丁場
（日本遺産構成文化財）

小豆島は良質の花崗岩の産地。大坂城の石垣にも使われている。島内にはそれらの石を切り出した丁場の跡が、約18ヶ所残っている。





道の駅 小豆島オリーブ公園

約2,000本のオリーブ畑やレストラン、売店、ハーブ園や温泉、宿泊施設などが集まるオリーブの複合施設。さまざまな体験メニューのほか、秋にはオリーブの収穫体験もできる。

草壁港【休止中】

オリーブと醤の香りが迎えてくれる港。小豆島オリーブ公園や醤の郷はここからが便利。

坂手港

高松東港（香川）をはじめ、神戸港（兵庫）からの定期船も就航しており、関西からの玄関港。港にはアート作品も。「二十四の瞳映画村」まで車で約15分。

池田港

真っ赤な太鼓台型の待合所が迎えてくれる港。北に行けば棚田の風景が広がる中山地区、南に行けば、三都半島が広がる。

0 2km
N

壺井栄「二十四の瞳」の舞台

土庄港付近には
二十四の瞳を
モデルにした
ブロンズ像も
あります


二十四の瞳 平和の群像


「二十四の瞳映画村」校舎

小豆島出身の作家、壺井栄の小説『二十四の瞳』で知られる小豆島。島内には、「二十四の瞳映画村」や、小説『二十四の瞳』の舞台となり、映画「二十四の瞳」（昭和29年）のロケで使用された岬の分教場（田浦分校）など、縁の施設や場所があります。